

科目名	英語 I A	科目責任者	浅山 龍一
課題と試験担当教員			
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CGENG101		

■ 科目概要

『英語 I』の新教科書の内容については「英語 I B」のシラバスに示しております。後で述べますように、「英語 I B」を先に履修することをお勧めしているからです。

「英語 I A」で扱うホーソンもどれほど強くエマソンの影響を受けたかを読みとって頂ければ幸いです。

ホーソンの英語はエマソンやソローと同じぐらい難しいのですが、今回教科書で扱う2作品は、『ワンダーブック』という、ホーソンが子供向けに書いた作品の中に出ているもので、比較的読み易いものになっています。アメリカの子供たちに初めて紹介されたギリシャ神話だそうです。それも、ホーソンが自ら「いくらか脚色した」（前書きより）と認めており、彼の思想が滲み出たものとなっています。

そして「英語 I A」（テキスト科目）の学習についていえば、先に「英語 I B」（スクーリング）を受講することをお勧めします。事前のDVD学習とスクーリングの授業の中で基礎的な文法や構文、イディオムを学び、語彙を増やし、辞書の引き方に慣れ、さらに物語を貫くアメリカン・ルネサンスの思想をつかんだうえで、「英語 I A」の範囲であるホーソン作品を読み、課題（2つあります）や科目試験に取り組んでほしいと思います。つまり、スクーリング学習で基礎を確認し勢いをつけてから、「英語 I A」に挑戦してほしいのです。ここでも、作品を味わいながら、英語力をつけていただきたいと思えます。

■ 到達目標

「英語 I B」と同じく、名作を味わいながら、①辞書を引くことができるようになること②英文法の基礎を理解すること③語彙やイディオムを増やすことを目指します。そして、創立者も惹かれるアメリカン・ルネサンスの魅力をつかむことができれば幸いです。この授業を踏み台とし、practicalな英語の力を伸ばしたい方は「英会話」を、講読の力をさらに伸ばしたい方は「英語 II」を受講して下さい。

■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
pp.85-87	ベレロフォン登場。ピレーネの泉のいわれ。 〈英語〉同格のof。「名詞+現在分詞」会話文の後の倒置。
pp.88-90	神馬ペガサスとは。 〈英〉shouldとwould。「the(this、thatなど)+very+名詞」as ~as any--のこと。
pp.91-93	ペガサスの逸話。ペガサスを馬鹿にする現実主義の男。 〈英〉「知覚動詞+目的語+原形動詞 (or --ing)」過去の習慣のwould。仮定法のcould。when=thoughの場合。
pp.94-96	ペガサスを見た乙女と少年の話。 〈英〉付帯状況のwith。so (that)...で「だから」を表すこと。分詞構文。「I wish+主語+would~」
pp.97-99	ベレロフォンを茶化す大人と子供。キマイラの悪事。 〈英〉再び、知覚動詞のこと。It is ~that...の強調構文。
pp.100-102	キマイラ退治に必要なペガサス。 〈英〉shallの用法。「a+固有名詞」関係詞than。同格のof。neither~nor--のこと。
pp.103-105	同上。 〈英〉(either)~or--のこと。「~times as+形容詞 (or 副詞) +as--」 ~as well as--についての注意。「even (or still)+形容詞」接続詞のonceのこと。

学習範囲 該当する章など	学習内容
pp.106-108	心が揺らぐベレロフォンと励ます少年。少年の涙。ペガサス現る。 〈英〉so ~(that)--構文。「How+形容詞+a+名詞」as if~は仮定法。「感情語+that...」
pp.109-111	舞い降りてくるペガサス。 〈英〉使役のmake。「比較級+and+比較級」「grow (or get)+比較級」「the+比較級(,)the+比較級」「as~as --ever...」
pp.112-114	遊ぶペガサス(=神)。飛び乗るベレロフォンと怒るペガサス。 〈英〉too~to-の構文。付帯状況。「less+形容詞」感嘆文。
pp.115-117	もがくペガサス。ベレロフォンの優しさが伝わると―― 〈英〉so~(that)構文。as long as...のこと。形式主語のit。付帯状況。「感情語+不定詞to-」
pp.118-120	ペガサスを解き放つベレロフォン。舞い戻るペガサス。 〈英〉分詞構文。「in+時間」highとhighlyのこと。no longerの使い方。感情のshould。
pp.121-123	親しみを増す馬と青年。キマイラ登場。 〈英〉no bigger than--のこと。hardlyの使い方。独立分詞構文。
pp.124-125	キマイラと決戦の始まり。 〈英〉「sound(or seem or look)+形容詞」と「sound(or seem or look)+like+名詞」付帯状況のwith。
pp.126-128	再び、ペガサスに自由を与えようとするベレロフォン。ペガサスは――。死闘と勝利。〈英〉shallの使い方。Though~, yet--のこと。whileの意味。
pp.129-131	もともと親のいないエピメテウスとパンドラ。置かれた箱のこと。 〈英〉関係詞thatのこと。What have you~?とWhat do you have~?
pp.132-134	世界には始めは子供しかいなかった。遊びに明け暮れ、仲良しの子供たち。 〈英〉It is ~years since...のこと。「名詞+現在分詞」関係詞whatのこと。「否定副詞+倒置」
pp.135-137	箱が気になるパンドラ。気をそらそうとするエピメテウス。 〈英〉「grow+比較級」less~than--のこと。「いたい」を表すcan、in the world、on earthの使い方。「grow+形容詞」I wish ~would--のこと。(even) if のこと。
pp.137-139	箱にますます惹かれるパンドラ。 〈英〉other~than--のこと。was gone = had goneのこと。「would have+過去分詞」で仮定法。
pp.140-142	箱の表面に浮かぶ顔。 〈英〉主語が一致しない分詞構文のこと。使役makeが入った表現の受動態。what is called ~のこと。「Had+主語+過去分詞」「~times as+形容詞 (or 副詞) +as--」
pp.143-145	子供たちが遊びに飽きると―― 〈英〉so as not to-のこと。不定詞to-の形容詞用法の注意点。if=whenになる場合のこと。
pp.146-148	皆さんだったらこの箱をどうしますか。――箱を開け始めたパンドラ。 〈英〉仮定法。形式主語itのこと。関係詞whenのこと。「much+比較級」
pp.149-152	ひもがほどけ、もとに戻せない。どうしよう。そのとき、箱の中から声がした。 〈英〉wonder whether (or if)~のこと。接続詞の直後の「主語+be動詞」について。「find+目的語+補語」「should have+過去分詞」「leave+目的語+補語」
pp.153-158	じっと様子を見ていたエピメテウス。外は暗雲。箱から何か飛び出した。 〈英〉強調構文。仮定法過去完了。「something+形容詞」as if~のこと。接続詞as(~につれて)の使い方。「否定副詞+倒置」no less than--のこと。
pp.158-160	その正体。 〈英〉助動詞の過去形で仮定法を表すことができる。関係詞than。in order (or so)that~may--のこと。Hadで始まる仮定法。
pp.161-163	これらの虫が世界に広がって、不幸のもととなった。 〈英〉形式主語itがthat節を受ける場合。感情のshould。
pp.164-166	箱の中からコツコツたたく音。小さな優しい声。 〈英〉too~to-の構文。「感情語+不定詞to-」shallのこと。about(= [a] round)の意味。so~as to-のこと。
pp.167-171	優しい声に惹かれる2人。箱から妖精のようなものが。 〈英〉形式目的語itの使い方。rather~than--のこと。may as well~のこと。「場所を表す副詞+倒置」「so+倒置」kiss~on the--について。sinceの意味。

学習範囲 該当する章など	学習内容
pp.172-177	妖精の名は希望。彼女が2人に教えたこと。今日に至るまで彼女が果たした役割。 (英)「must have+過去分詞」「keep+目的語+補語」「be動詞+to-」as long as～の使い方。There～構文。If～should--のこと。not only～but (also)--のこと。for～to-の形。「most +形容詞+名詞」助動詞の過去形で表わす仮定法。

■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	毎回の科目試験の出題範囲については、前もって『学光』に掲載されるので、注意してください。 毎回、作品のいくつかの箇所（通常3箇所）の英文和訳が試験問題になりますが、基礎的文法を理解し、主な構文やイディオム、そして語彙を身につけたかどうかを問うています。作品の背後にある思想をつかんだかどうかも問うことになります。
レポート	課題は教科書のTHE CHIMÆRAとTHE PARADISE OF CHILDRENから1問ずつ出されます。 いくつかの大事な点を確認しておきます。①英和辞典をしっかり引きましょう。使われた単語について、あの意味、この意味と考えながら最適なものを選びます。②文法については、高校までの教科書か参考書にある「文の構造」（S V O Cの組み合わせ）の解説を確認しておいてください。『英語 I』教科書の巻末の「学習指導書」にも目を通しておいてください。③テキストの英文の後にある【注】を参考にしましょう。そして最後に、④課題文の和訳をすべて書いた後に、1行あけて「思索の跡」と題して、①～③を通し、皆さんがその和訳にいたった過程を書き残してほしいのです。レポートを採点する教員はそれらをすべて読み、皆さんの理解度を読み取り、加点をすることもできるのです。 例えば、「(1) □行目のissueには、1. 流出 2. 発行 3. 問題 4. 結果などの意味があるが、ここでは3. である。理由は前の行に貧困や人口増加といった社会問題があげられているから。(2) △行目の関係詞whoの先行詞は・・・」のように書いておいてください。その際、テキストの該当箇所の【注】にすでに述べられていることを写さないでください。それは「思索」ではありません。もちろん、【注】の誤りを指摘するのは歓迎です。

■ 評価方法

- 科目試験：70%
- レポート：30%

■ 教科書

書名：英語 I
著者名：浅山・藤本
出版社名：創大通信教育部
出版年：平25.3
版：初版
刷：
ISBN：978-4-86302-056-6

■ 参考書

ロナルド・ボスコ / ジョエル・マイアソン / 池田大作『美しき生命 地球と生きる 哲人ソローとエマソンを語る』（毎日新聞社 2006年）
 エマソン『エマソン論文集（上）』（酒本雅之訳 岩波文庫 1973年）
 ソロー『森の生活』（神吉三郎訳 岩波文庫 1979年）

■ 履修上のアドバイス

「英語 I A」は「英語 I B」（スクーリング）を受け、文法の基礎を確認し、語彙を増やし—何より英語に自信をつけたうえで挑戦してほしいと思います。そのためにもスクーリングにおいて、活発に意見を言ってもらい、質問もしていただきたいと思います。

■ 自習時間

英文を見て、辞書を引き、【注】に示された文法事項その他を参考書等で確認したり、紹介された参考文献に目を通すなどして、1回（1コマ）につき3時間の学習をしてください。その中でレポートを2課題分作成してください。また、科目試験のために10時間は勉強してください。

■ 担当者のプロフィール

1952年徳島県生まれ。創価大学大学院文学研究科博士後期課程修了。文学修士。現在、創価大学文学部教授。文学部長。専門分野はアメリカ文学。主に、マーク・トウェインとアメリカン・ルネサンスについて研究。著書に『英語コンサルタント』（南雲堂）『英文和訳の征服』（双文社）『英語の名ガイド』（興学社）現代英語書き換えに『フランダースの犬』（英語教育協会）。その他、マーク・トウェインやアメリカン・ルネサンスに関する論文やエッセー。